

洞爺湖サミットの陰の主役は、原子力発電炉？

先の洞爺湖サミットの主要議題はご存知の通り地球温暖化対策であり、先進諸国と後進諸国との間で二酸化炭素効果ガス排出量規制に合意できるかどうかであったが、一方、このサミットの陰の主役は原子力発電炉であったとか。

云われてみれば、集まった先進諸国と後進諸国の個別首脳会談では、原発での協力が話し合われていたよう。

つまり、地球環境問題に名を借りて、二酸化炭素排出の問題の少ない原発の売り込みだったのかな？

こうした折、深夜に核シリーズとして5夜連続で、各国の過去の核開発の当事者たちのインタビューのドキュメンタリー番組が放映されたので見た。

それら番組から、原発については、莫大な金がかかること、安全でないこと、平和的でないこと、核先進各国の思惑が複雑に絡んでいたこと、等々が浮かび上がってくる。

資金面では、1基3000～4000億円もかかるよう。

また、安全面ではチェルノブイリ原発事故等を持ち出すまでもなく、人が作り人が管理・運営するものに完璧に安全というものは存在し得ない。

更に、核の平和利用という原発は、先進国は核の怖さを知るだけに核拡散を防ごうとしながらも、各国の国益の思惑が陰にうごめいているし、また、核廃棄物は核兵器に転用可能なことから平和的でないことは明らか。

地球環境問題が今の世界の重大な問題であることは理解できるが、理屈的には、はるか未来には太陽という星はいずれ縮小、膨張するし、地球という星の自転速度は年々遅くなっておりいずれ自転が止まるし、宇宙の営みの前ではいずれ地球の環境問題の限界が予想される。

だから、「今の地球の環境問題はどうでもいい」というつもりは毛頭ない。

むしろ、自国の国益だけを優先し、地球号に同乗する人類の存続を脅かすことはぜひ避けて欲しい。

宇宙の営みによるはるか未来を案ずるより、近未来に核戦争が起これば人類滅亡の危機を迎えるだけに、地球という星に乗り合わせた人類そのものの未来のために、核兵器廃絶をぜひサミットの最優先課題にして真摯に話し合ってもらいたいと願う。